

新任職員紹介

● 清水中学校



校長 山口 真一

この四月に歴史と伝統ある清水中学校に着任いたしました。地域の皆様、お世話になります。よろしくお願いたします。予測困難な時代ですが、未来ある生徒たちのために我々教職員は何ができるか、何をやるべきかを常に自問自答しながら精一杯取り組んで参りたいと思います。清水中学校はどんな学校ですかと問われたら、「引き受け・引き出す学校」と答えます。子どもたちの多様性を引き受け、一人一人の持ち味を引き出すことがこれからの教育だと考えます。そのためには、地域とともに歩んでいくことも大切だと思

いますので、ご支援よろしくお願いたします。

● 清水小学校



校長 矢崎 基

このたび、大内勝先生の後任として、清水小学校長として着任いたしました「矢崎基」と申します。「前任・飯田市立和田小学校長」歴史と伝統のある清水小学校をあらゆる者として、身の引き締まる思いです。

私がめざしているのは、子どもたちも先生方も安心して学べる学校です。子どもも先生も、のびのびと学習に取り組む力をつけて欲しいと願っております。一人一人のよさを大切に、さらに伸ばせる

よう、職員一同と心を一つに取り組んでまいります。子どもたちの健やかな成長のために、保護者・地域の皆様のご理解・お力添えをよろしくお願いたします。

● あがたの森文化会館

館長 朝倉 一樹

この4月から大正ロマン漂う木造校舎でお世話になっていきます。旧松本高等学校は明治の誘致運動に始まり、大正8年に全国で9番目に開校しました。昭和に入り長野県宝あがたの森文化会館として保存・活用され、平成5年には旧制高等学校記念館が開館し、平成19年に校舎は国重要文化財に指定されました。また今年には松高100周年にあたり、令和元年の新たな年に、この伝統と環境を後世に引き継ぐその責務の重さに、身の引き締まる思いがいたします。至らぬところが多々あるので、地域の皆様にはたいへんお世話になります。ご指導賜りますようお願い申し上げます。



第三分団消防団員募集

◆消防団は何をするの？

松本市の消防団は第1分団から第43分団迄に分かれており、第3分団は次の範囲を担当しています。

中央2丁目の一部、中央3丁目の一部、中央4丁目、清水1〜2丁目、県1〜3丁目、深志2丁目の一部、深志3丁目の一部、埋橋1〜2丁目、本庄1丁目の一部及び本庄2丁目



消防署だけでは対応しきれないので、火事や地震などの災害時の救助、行方不明者の捜索等、消防署と協力して、地域の安全を地域の人たちで守るための組織です。

◆どんな人が団員になれるの？

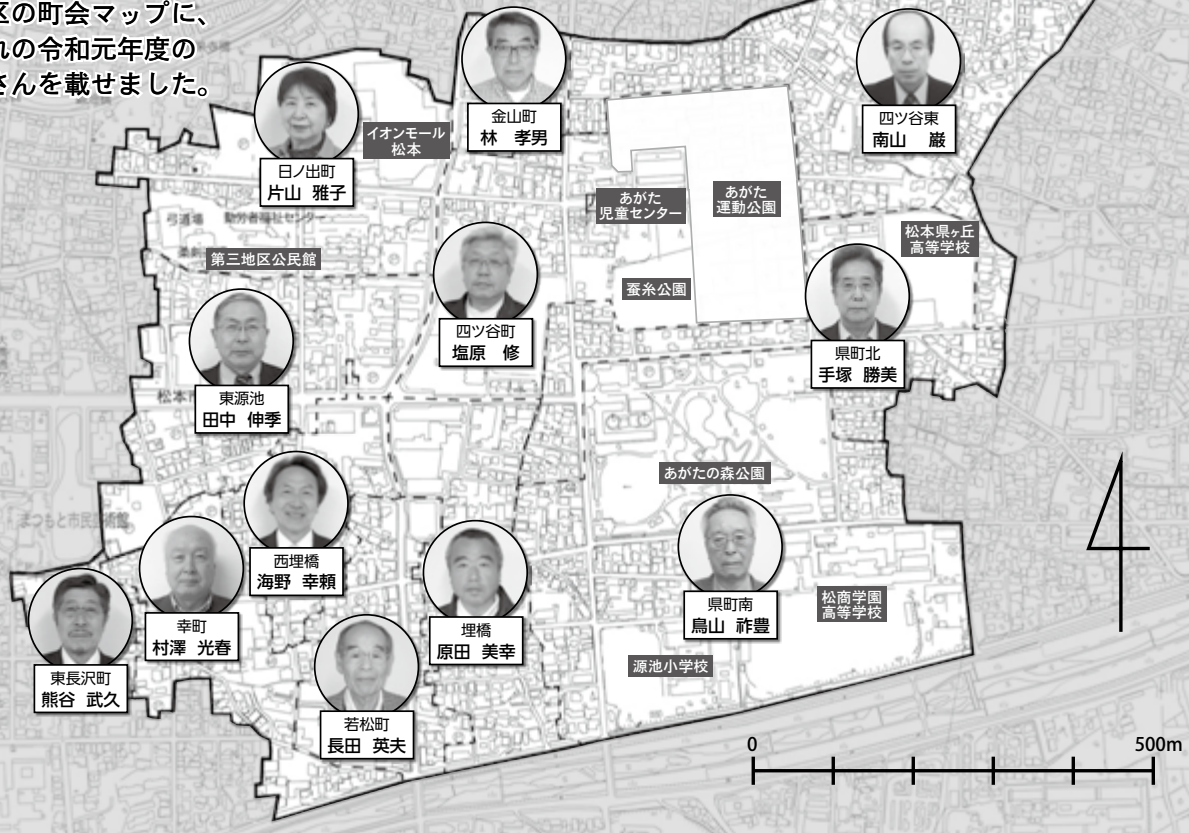
18才以上の地域内にお住まい、もしくは職場や学校がある人なら男女問わず、誰でも団員になれます。企業の中には消防団に入ることを推奨しているところもあり、学生にも課外活動の場として消防団に協力していただいています。

現在第3分団は定員が30名のところ20名しか団員がいません。近年団員不足に悩んでおります。いざという時のために是非力を貸していただけると嬉しいです。話を聞いてみたい方や入団してみたい方は第三地区公民館(36-7040)か黒田分団長(携帯090-11116-2581)までご連絡ください。



令和元年度 町会長紹介

第三地区の町会マップに、それぞれの令和元年度の町会長さんを載せました。



令和元年度の抱負

第三地区町会連合会 会長 熊谷 武久



この五月に、年号が平成から令和に変わり新しい時代に入りました。

私も早くも三年目を迎えることとなりました。地区の皆様方には、本連合会の活動にいただいたご理解とご協力に心から感謝申し上げます。さて、昨年は松本市都市景観賞を受賞しました。地区にあった片倉工業の歴史的産業遺産を若者や子供たちに伝えるまちづくり活動が認められました。また、高齢者を対象にした『いきいき100歳体操』を地区で開催し、現在では、他地区から問い合わせがあり全的に広がればと思っています。

時代は変わりますが、地区としては今までどおり変えることなく「生きがいの仕組みづくりや地域の特性を生かした地域づくり」に取り組みで参りたいと思います。本年度もご支援ご協力をお願い申し上げます。

令和元年度 館報編集委員

- ◆ 委員長 降旗 都子 (四ツ谷東)
- ◆ 副委員長 武井 厚 (豊町南)
- ◆ 委員 育成会 谷口 陽子 (四ツ谷町)
- ◆ 町会長代表 手塚 勝美 (豊町北)
- ◆ 町内公民館長代表 上條 恒嗣 (豊町北)
- ◆ 民生児童委員代表 小口希志子 (四ツ谷東)
- ◆ わかばの会代表 谷口 陽子 (四ツ谷町)

◎取材などにお伺いしましたらご協力を願います。



昭和、平成と二つの時代を生きて抜いて六十数年、各々がほぼ三十数年間。そして、「令和」の時代が今月始まった。

私の昭和年間、誕生から幼少期、青年時代と結婚して子供が生まれるまで。平成の時代は、仕事と子育てに励み、松本を離れて単身生活も経験した。そして地元に戻って、幸いにも「無職」生活を始めることができた。

ところで、平成の時代の当地区では、街区や道路に大きな変化はなかったものの、美術館ができ、市民会館が芸術館として改築され、カタクラモールがイオンモールとして新たに生まれ変わった。

一方、この地区での暮らしを見れば、個人の商店が減少し、空家や空地が増加。住民の高齢化が進んだものの、暮らし易さはそれ程変わらない。

そして新しい時代に入り、個人的には健康状態を維持しボケないようにすることが第一なのだが、この地域での暮らしはどうなるのだろうか。平成までの地域の仕組みが大きく変化するよう気がしてならない。

(武井 厚)